

[第1分科会] 第4回分科会の御意見の反映状況について

資料1

1-1-2 産業を支える人材の確保・育成と雇用創出

No.	① 第4回分科会でお示した「現状と課題」・「主な取組」	② 第4回分科会での御意見	③ 御意見反映後の「主な取組」
1	<p>【現状と課題】 農業就業人口及び農業経営体数が減少傾向にあることから、農業労働力の確保のため、意欲のある新たな担い手の育成・定着化に取り組むことが重要となっています。</p> <p>【主な取組】 ①新規就農者や後継者等に対し、県や青森農業協同組合等と連携しながら、相談・研修・就業の各段階に応じたサポートを行うなど、意欲のある新たな担い手の育成・定着化を図ります。 ②認定農業者の育成や地域の中核となる集落営農の組織化や法人化を支援するなど、農業労働力の確保に向けた仕組みづくりに努めます。</p>	<p>○農家は担い手不足のため、法人化しないと生き残れない事態になっている。ただ、法人化するメリットが農家に伝わっていないのではないか。</p> <p>⇒【主な取組】②に反映</p>	<p>【主な取組】 ②認定農業者の育成や地域の中核となる集落営農の組織化や法人化に当たっては、制度の周知とそれに基づくきめ細かな支援により、農業労働力の確保に向けた仕組みづくりに努めます。</p>

1-2-1 市内産業へのDXの推進

No.	① 第4回分科会でお示した「現状と課題」・「主な取組」	② 第4回分科会での御意見	③ 御意見反映後の「現状と課題」
2	<p>【現状と課題】 農業就業人口の減少及び高齢化が進行していることから、耕作面積の減少や遊休農地の拡大、農業経営の弱体化が懸念されています。</p> <p>【主な取組】 ロボット技術や情報通信技術等を活用したスマート農業技術の導入などにより、生産性の向上や作業の効率化に向けた取組を促進し、農業経営の合理化・近代化を図ります。</p>		<p>【現状と課題】 農業就業人口の減少及び高齢化により農業経営の弱体化が進行していることから、生産性や作業効率の向上に向けた取組が重要となっています。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1-1-1の「現状と課題」と内容が重複しているため修正します。</p> <p>【参考】1-1-1 現状と課題 農業就業人口の減少等により、遊休農地が増加傾向にあることから、農地の利用集積・集約化への取組が重要となっています。</p> </div>

1-3-2 ブランド力向上による生産力・収益力の強化

No.	① 第4回分科会でお示した 「基本方向」・「施策名」	② 第4回分科会での御意見	③ 御意見反映後の「施策名」
3	<p>【基本方向】 県や周辺市町村、関係団体と連携し、域外からの所得獲得や域内での所得循環に向けた取組を促進します。 また、市産農水産物を活用した新商品の企画・開発や販路開拓等を支援し、<u>ブランド力向上や高付加価値化、認知度の向上を図ります。</u></p>		
	<p>【施策名】 ブランド力向上による生産力・収益力の強化</p>		<p>【施策名】 ブランド力向上による生産力・収益力の強化 ブランド化・高付加価値化の推進</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="color: red;">基本方向に沿った施策名に修正します。</p> </div>

1-5-2 若者に選ばれる移住・定住の促進、関係人口の創出

No.	① 第4回分科会でお示した「現状と課題」・「主な取組」	② 第4回分科会での御意見	③ 御意見反映後の「現状と課題」・「主な取組」
4	<p>【現状と課題】 近年、転入よりも転出する人口が多い社会減が続いており、就職や進学による若年層の社会減が高い水準にあることから、若者の移住・定住による地域力の維持・強化を図ることが重要となっています。</p> <p>【主な取組】 ①仕事や住環境、子育て・教育環境、行政からのサポートなど、移住検討者それぞれのニーズに応じた情報発信や相談体制、移住支援金制度の充実を図ります。 ②移住体験・ワーケーション体験や移住者交流会などにおいて、地域との交流機会の充実を図ることで、移住検討者や移住者が地域との縁・繋がりを深める機会を創出します。 ③本市のまちづくりや地域住民と多様な関わりを持つ関係人口の創出・拡大など地域の担い手となる域外人材の確保を促進します。</p>	<p>○自由な働き方ができるからといって、そこにいきなり定住するわけではない。定住ではなく、まずは一時的に拠点を構えていただくことを促していかなければならない。</p> <p>○二地域居住ができる人は世の中にたくさんいる。そういう人たちが将来の移住者となるならそれは素晴らしいこと。一方で、二地域居住のままでもいいと思う。青森にメインの拠点を持たなくても、青森に通い、青森に力を貸してくればそれでいい。関係人口の発想で捉えるべきだと思う。</p> <p>⇒【現状と課題】及び【主な取組】③に反映</p>	<p>【現状と課題】 近年、転入よりも転出する人口が多い社会減が続いており、就職や進学による若年層の社会減が高い水準にあることから、若者の移住・定住、関係人口の創出による地域力の維持・強化を図ることが重要となっています。</p> <p>【主な取組】 ③本市のまちづくりや地域住民と多様な関わりを持つ関係人口の創出・拡大に向け、地域の担い手となる二地域居住などによる域外人材の確保を促進します。</p>